

コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i> (Lour.) Ohwi	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)	アブラナ科	
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(清水英彦) 
形態の特徴	1年草または越年草。茎は直立するか斜上して高さ10-40cm。基部からよく分枝する。基部の葉は有柄、ロゼット状で早期に枯れる。茎葉と苞は無柄。花期は4-5月。花は腋生し、淡黄色で、径4-5mm。長角果は直立し、円柱形。	
生態的特徴	原野、道端、土手、湿地などに生える。	
分布状況	本州(関東地方以西)、四国、九州、シベリヤ(極東)、朝鮮、中国、東南アジアに分布し、県内では県南の南部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の1地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良